

2023年7月20日

各位

本店所在地 東京都千代田区麹町二丁目1番地  
会社名 そーせいグループ株式会社  
(コード番号 4565 東証プライム)  
代表者 代表執行役社長 CEO  
クリストファー・カーギル  
問い合わせ先 IR & コーポレートストラテジー部  
西下進一朗  
電話番号 03-5210-3290 (代表)

## イドルシア社の日本および APAC<sup>1</sup>における医薬事業買収のお知らせ

- 高いシナジーが見込める後期臨床開発機能と高収益/急成長中の医薬事業を日本で獲得
- 日本および APAC<sup>1</sup> から高い付加価値と素早い規模拡大を目指す新たなビジネスモデル
- 高成長が見込める主力製品ピヴラッツ<sup>®</sup>およびダリドレキサントの日本および APAC<sup>1</sup> の権利に加え、さらなる成長を可能とするパイプラインのオプション権等を取得
  - ピヴラッツ<sup>®</sup> : 日本で脳血管攣縮発症抑制薬として販売中。2022 年の売上高 75 億円 (薬価ベース)、2023 年は前年比 76% の売上増を見込む
  - ダリドレキサント : 不眠症を適応症とし、日本で 2023 年下期に承認申請予定、米国・欧州では既に販売済み
  - Idorsia 社のグローバル開発品のうち 7 品目の独占的オプション権等を獲得
- 田中諭氏が率いる開発・上市の卓越した実績と経験を持つチームの獲得
- 取得総額 650 億円は、手元の現金と新たな低利の長期借入金 (借入先 : みずほ銀行、借入期間 7 年、金利 : TIBOR+スプレッド) により充当
- 本取引後の通期初年度からキャッシュフロー創出、完了後の手元資金は約 420 億円
- 本取引に関するライブ Web 説明会を 2023 年 7 月 20 日 (木) 午後 5 時から開催

当社は、2023 年 7 月 20 日開催の取締役会において、以下のとおり、Idorsia Ltd および Idorsia Pharmaceutical Ltd (以下総称して、「イドルシア社」) より、イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社 (以下「IPJ」) および Idorsia Pharmaceuticals Korea Co., Ltd. (以下「IPK」) の全株式を取得し子会社化すること (以下「本取引」) について決議しましたので、お知らせいたします。

また本取引には、2022 年 4 月の上市後、既に日本で販売され、売上を急速に伸ばしている主力製品のピヴラッツ<sup>®</sup> (一般名 : クラゾセンタン) を含む、イドルシア社が保有するパイプラインに関する日本および APAC<sup>1</sup> における権利を取得することが含まれます。本取引に要する資金総額約 650 億円は、

<sup>1</sup> 中国を除く Asia-Pacific 地域。韓国、オーストラリア、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、ニュージーランド、フィリピン、シンガポール、台湾、タイ、ベトナムを含む

## PRESS RELEASE

手元現金 250 億円とみずほ銀行を借入先とする借入期間 7 年で低利の長期借入金 400 億円により充当します。

当社は、本取引に関するライブ Web 説明会を 2023 年 7 月 20 日（木）午後 5 時から開催します。この説明会はどなたでもご参加いただけますが、主に株主・投資家の皆さま、セルサイド・バイサイドのアナリストの皆さま、メディアの皆さまを対象としており、プレゼンテーションと質疑応答を行います。説明会に参加ご希望の皆さまは[こちら](#)からご登録ください。

当社代表執行役社長 CEO であるクリストファー・カーギルは次のように述べています。「2015 年に Heptares Therapeutics の GPCR 創薬プラットフォームを獲得して以降、当社グループは、日本および世界の患者さまの人生を変える新規医薬品をお届けするというミッションを加速するため、最適なチャンスを見出すべく、非常に根気強く取り組んできました。資金手当が既に完了している本取引は、この目的に合致する革新的なもので、当社グループの重要な戦略目標の一つ、グローバルに展開しつつ日本で販売までを行うバイオ医薬品企業の確立を実現するものであり、売上高の増加と来年予定されている新製品上市を伴うものです。近年、日本で最も成功した医薬品開発を成し遂げてきた田中諭氏が率いる経験豊富な臨床開発および起業家精神溢れる販売チームが加わることで、当社グループは、日本発の国際的なリーディングバイオ医薬品企業になるというビジョンに向けた取り組みを加速していきます。

日本の医薬品市場は、その規模、高齢者人口の増加、魅力的で質の高い臨床開発および規制環境を踏まえれば、当社グループが成長するための重要なステップと考えています。当社グループは、これまでと異なるアプローチで日本市場へ参入することで大きく成長できる可能性をもち、また、この地域で開発・商業化パートナーとして選ばれるための一連のプラットフォームを持つこととなります。加えてこの買収は、英国および日本の既存事業と補完性が高く、現在保有する自社品や提携品、および将来の導入品を日本および APAC で開発・商業化できる大きな機会と選択肢を確保します。初年度からキャッシュフローが創出できる本取引により<sup>2</sup>、当社の重要なステークホルダーの皆さまに大きな価値と利益をもたらすことができると確信しています。」

当社取締役会会長である田村眞一は次のように述べています。「本日は当社グループにとって歴史的かつ、当社グループの目指す意欲的な成長戦略の実現に向けて、重要な一歩を踏み出した日となりました。日本で一流、かつ、これからの成長を力強く支える開発・商業化の力が加わったことで、当社グループは自らの将来を自らの手で作り出し、株主の皆さまのために価値を生み出すことができるようになります。本取引を実現したクリスとチームに祝意を表し、田中諭氏をはじめとする IPJ と IPK のメンバーを歓迎します。彼らの専門知識と当社グループの世界有数の GPCR 創薬力を組み合わせることで、当社は日本および世界の患者さまに革新的な医薬品をお届けする能力を備えた、日本のバイオ医薬品業界における新たなリーディングカンパニーになることができると確信しています。」

<sup>2</sup> 本取引に関連する一時的な費用を除く

**PRESS RELEASE**

IPJ 代表取締役社長である田中諭氏は次のように述べています。「私とチームは、Sosei Heptares の一員となり、日本および APAC において、競争力のある従来にない医薬品事業を構築する機会を得ることができたことを大変喜ばしく思っています。上市済みで日本での売上が急速に増加しているピヴラッツ® と今年末までに日本で承認申請が予定されているダリドレキサントを始め、私たちには既に強力な成長基盤がありますが、Sosei Heptares の世界をリードする GPCR を標的とした創薬プラットフォームと、そこから継続的に生まれる幅広いパイプラインを活用することで、その基盤がさらに強化されることでしょう。私たち日本のチームは製品上市における素晴らしい実績があり、Sosei Heptares と戦略とビジョンを共有しお互いの強みを結集することで、より輝かしい未来が訪れると確信しています。」

**1. 本取引の理由**

当社グループは、2022 年に発足した新経営体制のもと、独自の創薬プラットフォームおよびパイプラインを起点とし、グローバルでの提携に加えて日本および APAC における販売力を備えた、バランスの取れたビジネスを構築するという、新たな戦略を明確にしています。この戦略では、臨床開発～販売体制をアジャイルかつ拡大可能な形で構築し、日本の患者さまに人生を変える医薬品を届け、この大きく魅力的な市場で、見逃されている市場の発掘に取り組むことを柱のひとつに掲げています。

IPJ と IPK の子会社化はこの目標を達成する最良の手段であり、当社チームのグローバルでの徹底的なリサーチの結果です。本取引は手元現金と低利の新規長期借入金により資金手当て済みであり、通期での初年度から、キャッシュフローを創出する予定です。本取引の戦略的意義は以下の通りです。

- 日本における卓越した臨床開発機能と収益力の高い販売体制、従来にない販売・マーケティングモデル、規模拡大とさらなる価値創出力が加わることによって、当社グループのミッションを加速する。
- 主要製品であるピヴラッツ®とダリドレキサントの獲得、および Cenerimod と Lucerastat に対する独占的オプション権、そしてアイドルシア社のグローバルパイプラインから最大 5 品目の臨床段階にある追加的プログラムに対する特定の権利により、将来のパイプラインを確保・拡大する。
- 過去 20 年にわたり、日本と韓国で多くの承認取得と上市を成功させてきた田中諭氏が率いる、経験豊富で卓越した実績とサービス提供力を有するチームを獲得する。
- 日本の高品質な臨床環境を活用し、見逃されている専門疾患領域をターゲットにするとともに、より広域な APAC への拡大と製品上市を可能とするプラットフォームを獲得する。

また本取引によって、日本および APAC（中国を除く）地域において、(1) 当社グループが 100% 保有している従来からの自社開発品、(2) アイドルシア社のパイプラインから選定され当社がオプション権あるいは特定の権利を獲得した臨床候補化合物、および (3) 他社の有望な製品/開発品の導入、の 3 つの方法で、有望なパイプラインを獲得し開発および販売力を行うことができますようになります。

**PRESS RELEASE**

加えて、当社グループは、日本および APAC 地域以外においては、従来通り、当社の強固な創薬プラットフォームから生まれた新規候補化合物やプログラムについて、大手製薬企業との提携を目指します。

**日本におけるバイオ医薬品事業の構築**

本取引により、当社グループは、人生を変える可能性のある医薬品を日本の患者さま向けに開発・商業化できる、収益性が高く急成長している販売体制を獲得します。さらに、当社グループの自社開発パイプライン、提携パイプライン、日本および APAC（中国を除く）地域の他の魅力的な製品を導入することにより、迅速に規模を拡大する機会を得ます。

日本の医薬品市場は、2021 年には 850 億米ドル<sup>3</sup>と中国を除いて世界第 2 位の規模を誇る単一の先進国市場で、高齢化が進んでおり、患者さまが最新かつ最も効果的な治療法を求めていることから、安定的な成長が見込まれています。

当社グループは、日本の高品質な臨床環境を活用し、十分な治療法が確立されていない専門疾患領域に向け、開発および販売についての専門知識をテコに、スリムでアジャイルかつ合理的な事業モデルを構築する本機会を活かし、価値創出を図ります。

将来的に当社は、より広い APAC（中国を除く）での開発・販売、および新製品導入を目指します。

**日本における豊富な経験と実績を持つチームの獲得**

当社グループに加わる IPJ および IPK のチームは、医薬品開発と商業化の豊富な経験を有し、日本における卓越した実績を、APAC（中国を除く）地域に拡大します。総勢 137 名（日本 132 名、韓国 5 名）のチームは、規制・薬事、価格設定・市場アクセス、営業・マーケティングを含む臨床開発および商業化の専門家で構成されており、現在 IPJ および IPK の代表取締役社長であり、新たに当社の執行役に任命された田中諭氏がこのチームを率います。

田中氏は、アクテリオン（2001 年～2018 年）および IPJ（2018 年～現在）において日本での開発・商業化活動を主導し、日本で最も成功した医薬品開発者の一人です。IPJ は 2017 年に 300 億ドルでアクテリオンを買収した後、ジョンソン・エンド・ジョンソンからスピンアウトしています。

田中氏は、肺動脈性肺高血圧症（PAH）に対する世界初の経口薬であるトラクリア®（ボセンタン）（2005 年）およびその後数年にわたる他の適応症への複数の適応拡大、同じく PAH の治療薬であるオプスミット®（マシテンタン）（2015 年）、脳卒中の一種である脳血管攣縮発症抑制薬であるピヴラッツ

<sup>3</sup> IQVIA Institute: The Global Use of Medicines 2022, Outlook to 2026

**PRESS RELEASE**

®（クラゾセンタン）（2022年）など、複数の製品を日本で上市してきました。

また、IPJのチームは当社グループの英国ケンブリッジの世界有数の創薬・初期臨床開発チームと、日本の既存の開発チームと大きなシナジーが期待できます。日本チームの拡大により、日本だけでなく他のAPAC市場に販売範囲を広げ、長期的に当該地域での取扱製品拡大の基盤となります。

**日本におけるリスクの低い後期開発製品による機会の拡大**

本取引により、当社グループは、イドルシア社からAPAC（中国を除く）地域におけるピヴラッツ®とダリドレキサントのGPCRを標的とした2つの製品の権利に加えて、第Ⅲ相臨床試験中のプログラムであるGenerimodとLucerastatに対する独占的オプション権、そしてイドルシア社のグローバルパイプラインから最大5品目の臨床段階にある追加的プログラムに対する特定の権利を取得します。

ピヴラッツ®（一般名：クラゾセンタン）150mgは、2022年4月に日本で発売されました。ピヴラッツ®は、強力な選択的エンドセリンA（ETA）受容体拮抗薬であり、脳動脈瘤によるくも膜下出血（aSAH）術後の脳血管攣縮、およびこれに伴う脳梗塞および脳虚血症状の発症抑制を効能効果としています。ピヴラッツ®は、すでに約6,500人の患者さまの治療に使用されている急成長中の製品です。日本での発売以来、ピヴラッツ®の売上総利益（薬価ベース）は2022年通年で約75億円、2023年通年では130億円を超えると見込まれています。

2022年10月には、デュアルオレキシン受容体拮抗薬（DORA）であるダリドレキサントが、日本の不眠症患者を対象とした第Ⅲ相臨床試験で良好なトップライン結果を達成しました。この結果に基づき、2023年下期に日本で承認申請を行う予定です。ダリドレキサントは、米国・欧州では不眠症治療薬として承認されており、イドルシア社がQUVIVIQ®のブランド名で引き続き販売します。日本で承認された場合、ダリドレキサントは持田製薬との共同販売契約に基づき販売されます。

**当面の目標とマイルストーン****日本およびAPAC**

- IPJおよびIPKのチームを速やかに統合し、継続中の開発と販売活動に関して、円滑な移行と高い業務効率を維持する
- 2023年第3四半期にピヴラッツ®の日本の脳血管攣縮治療ガイドラインへの掲載が確定
- 2023年下期中の韓国でのピヴラッツ®の承認。2024年下期の上市を見込む
- 2023年下期に不眠症治療薬ダリドレキサントの日本での承認申請。その後、2024年下期の承認と2025年の上市を見込む
- 2023年下期に韓国でダリドレキサントの第Ⅲ相臨床試験を開始、今後2~3年で上市
- イドルシア社のパイプラインに対するオプション権の行使等について決定
- 日本およびAPAC（中国を除く）での導入の機会を引き続き模索



## PRESS RELEASE

### その他の地域

- 以下の自社開発プログラムの臨床試験の開始・進展：  
HTL0048149（GPR52 作動薬/統合失調症）は第 I 相試験中、HTL0039732（EP4 拮抗薬/がん免疫療法）は 2023 年下期に第 I 相試験開始予定、その他の前臨床候補化合物は臨床試験開始に向けて進捗中（EP4 拮抗薬/炎症性腸疾患、M1 作動薬/神経疾患など）
- グローバル提携先が開発中のプログラムの臨床データ発表
- 自社や創薬提携に関して大手製薬企業とのグローバルでの提携（日本/APAC を除く）

### 将来の展望

本取引により、当社グループは、フルセットの機能を持つバイオ医薬品企業に進化し、提携プログラム・製品からの収益に加えて、広範な創薬パイプラインの価値を最大化することが可能になり、自社の将来やカタリストについても、より自社の意思でのコントロールが可能になります。

本取引により、当社グループは、日本を始めとする主要市場で患者さまに重要な医薬品をお届けするという成長戦略を加速できる体制を整え、全拠点で 370 名を超える従業員を擁することになります。

当社グループは、従来の強固な創薬プラットフォームに加え、地理的な拡大やポートフォリオのさらなる強化を通じて、日本事業の収益性を成長させ、さらに APAC（中国を除く）地域へと事業を拡大していく予定です。

本取引は、2022 年に策定した当社グループの新たな戦略を成功させるための重要な一歩であり、人生を変える医薬品を患者さまに届けるフルセットのバイオ医薬品企業として、全ての重要なステークホルダーのための価値を創出する能力を、さらに強化するものです。

### 財務上の影響

本取引のクロージング後、取得する会社の業績は当社グループの連結業績に反映されます。本取引の通年初年度からキャッシュフローを創出する見込みです。

本取引完了後の当社グループの手元資金は約 420 億円となります。

本取引に関し、当社グループの専任財務アドバイザーは Centerview Partners UK LLP、法務アドバイザーは Orrick, Herrington & Sutcliffe LLP が務めました。

Tracleer® および Opsumit® は Actelion Pharmaceuticals Ltd の登録商標です。QUVIVIQ® はイドルシア社の登録商標です。

PRESS RELEASE

2. 異動する子会社の概要

①イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社

(1) 名称	イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社			
(2) 所在地	東京都港区赤坂九丁目7番2号 ミッドタウン・イースト			
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 田中 諭			
(4) 事業内容	医薬品等の輸出入・販売			
(5) 資本金	95百万円			
(6) 設立年月日	2018年3月26日			
(7) 大株主及び持株比率	Idorsia Ltd. (100%)			
(8) 上場会社と当該会社との間の関係	資本関係	当該事項はありません。		
	人的関係	当該事項はありません。		
	取引関係	当該事項はありません。		
(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態				
	決算期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期
純資産		1,330百万円	2,503百万円	2,970百万円
総資産		2,268百万円	7,390百万円	20,344百万円
1株当たり純資産		1,506.55円	1,730.45円	2,059.05円
売上高		4,513百万円	7,213百万円	14,919百万円
営業利益		414百万円	617百万円	867百万円
経常利益		410百万円	615百万円	863百万円
当期純利益		206百万円	324百万円	467百万円
1株当たり当期純利益		233.38円	265.34円	323.23円
1株当たり配当金		－円	－円	－円

②Idorsia Pharmaceuticals Korea Co., Ltd.

(1) 名称	Idorsia Pharmaceuticals Korea Co., Ltd.			
(2) 所在地	2, 17F floor, Keumkang tower, 410, Teheran-ro, Gangnam-gu, Seoul			
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役 田中 諭			
(4) 事業内容	医薬品等の輸出入・販売			
(5) 資本金	100百万ウォン			
(6) 設立年月日	2022年7月7日			
(7) 大株主及び持株比率	Idorsia Ltd. (100%)			
(8) 上場会社と当該会社との間の関係	資本関係	当該事項はありません。		
	人的関係	当該事項はありません。		
	取引関係	当該事項はありません。		
(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態*				
	決算期	2020年12月期	2021年12月期	2022年12月期
純資産		－	－	135百万ウォン
総資産		－	－	2,428百万ウォン
1株当たり純資産		－	－	15,880.63ウォン
売上高		－	－	737百万ウォン
営業利益		－	－	35百万ウォン
経常利益		－	－	35百万ウォン
当期純利益		－	－	35百万ウォン
1株当たり当期純利益		－	－	5,880.63ウォン
1株当たり配当金		－	－	－ウォン

\*Idorsia Pharmaceuticals Korea Co., Ltd.は2022年設立のため2022年12月期のみ記載

PRESS RELEASE

3. 株式取得の相手先の概要

(1) 名称	Idorsia Ltd.		
(2) 所在地	Hegenheimermattweg 91, 4123 Allschwil, Switzerland		
(3) 代表者の役職・氏名	Jean-Paul Clozel, Chief Executive Officer		
(4) 事業内容	Holding Company of the Idorsia Group		
(5) 資本金	8.9 百万スイスフラン		
(6) 設立年月日	2017 年 3 月 3 日		
(7) 純資産	▲660 百万スイスフラン (2022 年 12 月期)		
(8) 総資産	904 百万スイスフラン (2022 年 12 月期)		
(9) 大株主及び持株比率	(2022 年 12 月 31 日現在) Jean-Paul and Martine Clozel : 27.37% Cilag Holding AG : 5.40% Rudolf Maag : 5.06% The Capital Group Companies, Inc. : 3.07% Lazard Asset Management LLC : 3.00%		
(10) 上場会社と当該会社の関係	資本関係	当該事項はありません。	
	人的関係	当該事項はありません。	
	取引関係	当該事項はありません。	
	関連当事者への該当状況	当該事項はありません。	

4. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

①イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社

(1) 異動前の所有株式数	0 株 (議決権の数 : 0 個) (議決権所有割合 : 0.0%)
(2) 取得株式数	1,447,000 株 (議決権の数 : 1,447,000 個)
(3) 取得価額	イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社の普通株式 44.4 百万スイスフラン (約 7,199 百万円 <sup>4</sup> ) アドバイザー費用等 (概算額) 1,120 百万円 <sup>5</sup> 合計 (概算額) 8,319 百万円
(4) 異動後の所有株式数	1,447,000 株 (議決権の数 : 1,447,000 個) (議決権所有割合 : 100.0%)

②Idorsia Pharmaceuticals Korea Co., Ltd.

(1) 異動前の所有株式数	0 株 (議決権の数 : 0 個) (議決権所有割合 : 0.0%)
(2) 取得株式数	1,000,000 株 (議決権の数 : 1,000,000 個)
(3) 取得価額	Idorsia Pharmaceuticals Korea Co., Ltd.の普通株式 116 千スイスフラン (約 19 百万円) アドバイザー費用等 (概算額) - 百万円 <sup>5</sup> 合計 (概算額) 19 百万円
(4) 異動後の所有株式数	1,000,000 株

<sup>4</sup> 1 スイスフラン=162.13 円

<sup>5</sup> アドバイザー費用等は本取引に係る総額を①(3)に記載



## PRESS RELEASE

	(議決権の数：1,000,000 個) (議決権所有割合：100.0%)
--	---

## 5. 長期借入の概要

(1) 借入先	株式会社みずほ銀行
(2) 借入金額	40,000 百万円
(3) 借入金利	TIBOR + スプレッド
(4) 借入実行日	2023 年
(5) 借入期間	7 年
(6) 担保の有無	無担保

## 6. 日程

(1) 取締役会決議日	2023 年 7 月 20 日
(2) 契約締結日	2023 年 7 月 20 日
(3) 株式譲渡実行日	2023 年 7 月 20 日

## 7. 今後の見通し

本取引が今後の当社連結業績に与える影響につきましては、現在精査中であり、今後公表すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以上

## イドルシア社について

イドルシア社は、より多くのアイデアを出し、より多くの機会を見出し、より多くの患者さまのお役に立ちたいと考えています。その実現のために、私たちはイドルシア社を、強力なサイエンスを中核とする、一流のバイオ医薬品企業へと進化させていきます。

欧州のバイオハブの中心であるスイスのバーゼル近郊に本社を置くイドルシア社は、治療法の選択肢の範囲を変える低分子創薬、開発、および商業化を専門としています。イドルシア社は、20 年にわたる創薬の伝統、革新的な医薬品からなる幅広いポートフォリオ、基礎研究 から臨床まであらゆる分野をカバーする経験豊かな専門家チーム、そして欧州、日本、米国での販売活動など、革新的な医薬品を患者さまに届けるための理想的な体制を整えています。

イドルシア社は、2017 年 6 月にスイス証券取引所に上場し（ティッカーシンボル：IDIA）、1,300 名以上の高度な資格を有する専門家が意欲的な目標の実現に取り組んでいます。[www.idorsia.com](http://www.idorsia.com)

## Sosei Heptares について

当社グループは、販売までを行うバイオ医薬品企業であり、世界をリードするサイエンスによって人生を変える医薬品を生み出すことをミッションとし、日本発の国際的なリーディングバイオ医薬品企業になることを目指しています。

PRESS RELEASE

当社グループは、日本で有数の開発力を有し、収益性が高く成長中の販売活動を展開しており、さらにアジア太平洋地域の重要な市場へと事業の拡大を図ります。

当社グループは、神経疾患、免疫疾患、消化器疾患、炎症性疾患など複数の疾患領域において、世界をリードするGタンパク質共役受容体（GPCR）をターゲットとしたStaR®技術ならびに構造ベース創薬（SBDD）プラットフォームから生み出される新薬候補物質の幅広いパイプラインを有し、開発に取り組んでいます。

さらに、当社グループは独自の創薬および開発力を活かし、アッヴィ社、ジェネンテック社（ロシュ・グループ）、GSK社、イーライリリー社、ニューロクライン社、ノバルティス社、ファイザー社、サノフィ社、武田薬品工業株式会社などの大手グローバル製薬企業および新興バイオ医薬品企業と価値創出につながる提携を行っています。

「Sosei Heptares」は、東京証券取引所に上場しているそせいグループ株式会社（証券コード4565）のコーポレートブランドです。「そせい」、「Heptares」、当社グループのロゴおよびStaR®は、当社グループの商標または登録商標です。

詳しくは、ホームページ <https://soseiheptares.com/> をご覧ください。

LinkedIn: [@soseiheptaresco](#)

Twitter: [@soseiheptaresco](#)

YouTube: [@soseiheptaresco](#)